

特集：防虫のための設備と管理

巻頭言

日頃は大変お世話になり、ありがとうございます。

今月の9日、私ども株式会社マルマの会長であります鈴木雅之が82歳で永眠いたしました。会長の在りし日を偲びこの場をお借りいたしまして、少しお話しさせていただきます。

会長は大変な勉強家でありまして、それは仕事に対する取り組みに表れていました。会長は、会長の父が経営する「がり・梅干・金山寺味噌」などを製造販売する現在のマルマの前身と成るマルマ食品を早くから手伝っていました。しかし、その食品分野から、まったくの異分野である消毒業へ、昭和40年代の初めに大転換しました。経験も知識もない状態から、一から勉強し、転換したのです。その後も、昭和40年代終わりには「文化財を虫から守るガス燻蒸業務」、昭和50年代には「病院の院内感染を防ぐ殺菌業務」、昭和60年代から平成に掛けて「食品工場への防カビ塗装業務」、そして今のマルマの総合衛生管理「M-TEC」の元と成るHACCPなどへの取り組みも含め、すべて自ら勉強し、その時代時代のマルマの柱と成る商品を創り上げてきました。

そんな会長でございますが、先月1月16日に肺炎の為、入院しました。一時は回復に向かった時期もございましたが、体力的に持たず、その後悪化し2月9日に亡くなりました。生前会長は、常に自分ではなく相手や公のことを優先する人でした。同業社の集まりである静岡県ペストコントロール協会の会長を務めていた時期は、自社の成長よりも業界全体の成長を優先し、行動していました。今、20年も30年も継続してお取り引き頂いているお客様がいらっしゃるということは、回りまわってマルマの信頼を高めていたのだと思います。今後とも、会長の遺志を引き継ぎ、信頼される技術とサービスをお客様にご提供することを亡き会長に約束したいと思っております。

皆様の、生前の会長へのご厚情に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(雅)

防虫のための設備と管理

食品を始めとした製造工場では、日々、防虫対策に注力されているかと思えます。しかし、実際の工場では、害虫が屋外から多数侵入し、問題となるケースが多く見られます。このため、屋外から侵入する害虫をいかに防ぐのが、防虫対策の要と言えるでしょう。今回のエムテックインフォメーションでは、屋外からの害虫の侵入を防止するための設備と管理方法についてご紹介します。

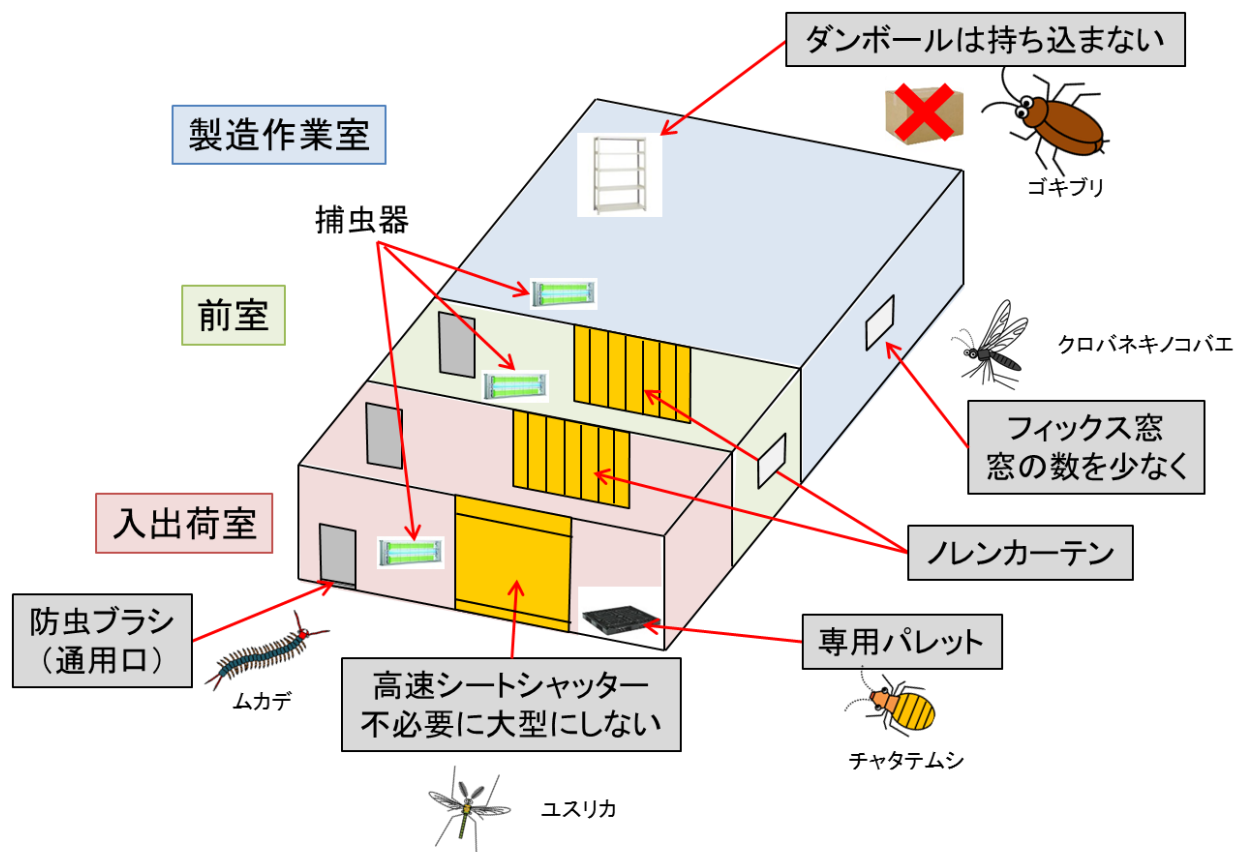


図 防虫設備や管理方法の概要

前室の設置

人や荷物の出入りの多い場所では、前室を設置することが有効です。前室を設置し、作業場内に到達するまでのシャッターや扉の枚数が増えるほど、侵入する害虫は減少します。あるデータでは、シートシャッターのある前室を1つ増やす毎に8割の害虫の侵入を抑えることができるという報告もあります。また、前室には外に光が漏れない位置に捕虫器を設置することで、製造作業室へ侵入する害虫をさらに抑えることができます。

窓の設計

窓は飛来虫が侵入する箇所1つです。窓の開放はもちろん、防虫網の網目が適切ではない場合にも、潜り抜けて侵入することがあります。防虫網は40メッシュ程度であれば、コバエなどの多くの害虫の侵入を防止できます。また、労働環境上や消防法での問題もありますが、窓が多いと害虫が侵入する箇所が増えるため、防虫面としては、窓はなるべく少ないほうが良いでしょう。また、窓を設置する場合は、開放できないフィックス窓（はめ殺し窓）が適しています。

荷物やパレットの管理

荷物には害虫が付着しているケースが多いです。特に、ダンボールは細かな隙間が多く、この隙間にゴキブリ類などが潜伏していることがあります。このため、作業場内にダンボールは持ち込まないことが重要です。

パレットも同様にチャタテムシ類やクモ類などの害虫が付着していることが多いです。害虫を製造エリアに広げないために、エリア毎に専用パレットを用意し、定期的にパレットを清掃しましょう。特に、木製パレットは害虫が非常に付着しやすいため、推奨できません。



シャッターや扉の管理

シャッターや扉は工場内で最も害虫が侵入しやすい場所です。これらの設備や管理には以下の方法があります。

シャッターや扉の開放厳禁

入出荷時にシャッターや扉を開放したまま作業をしていると害虫が侵入する原因となります。シャッター等の開放時間をなるべく短くするために、作業が終わったらすぐに閉めることが重要です。また、シャッター等の開口部が大きいほど、侵入する害虫数が多くなります。そのため、シャッターや扉を新規に設置する場合は、不必要に大型にはしないことがポイントです。



防虫ブラシ

シャッターや扉に隙間が出来ていると、閉めた状態でも害虫は侵入します。防虫ブラシをシャッターや扉の隙間に取り付けることで、害虫の侵入を防ぐことができます。シャッターの場合は下部や両側に、扉の場合は下部に設置します。害虫以外にも屋外からの埃の侵入防止にもなります。



ノレンカーテン

ノレンカーテンをシャッターや扉に設置することで、侵入する害虫を防ぐことができます。出入りが頻繁な箇所への設置が推奨されます。コスト面からも導入しやすい設備です。



高速シートシャッター

通常のシャッターから高速シートシャッターに切り替えることで、屋外からの飛来虫の侵入を抑えることができます。最近では特に下部や両側に隙間の無い、気密性の高いタイプが登場しています。また、同じ室内に複数の高速シートシャッターが設置されている場合は、インターロック方式にすることで、より防虫性が高くなります。



マルマ オフィシャルサイトがリニューアル！

2月1日よりオフィシャルサイトをリニューアル致しました。マルマの幅広い衛生管理サービスをご紹介するため、ページ数を大幅に拡大し、お客様にとって必要な情報を直感的に選択できる仕様に変更しております。また、弊社の総合衛生管理手法「M-TEC」の特徴のご紹介を、従来以上にわかりやすさを重視し、掲載致しました。

更新の概要

- 各サービスの説明が詳細に。
- モノクロラミン消毒のページが追加。
- 実際の導入事例も追加。
- 検査の依頼書・受領書がダウンロード可能に。
- 採用ページも一新。
- スマートフォン対応サイトに。



今後も新着情報を随時更新致します。
是非一度ご覧下さい。

食中毒情報

今月も先月以上に多くのノロウイルス食中毒が発生していましたが、中でも和歌山県御坊市で患者数が800人を超える大規模食中毒事件が発生していました。小中学校、幼稚園の学校給食が原因で、全て1つの給食センターで調理されていました。ノロウイルスが検出されている「磯あえ」が原因食と考えられています。調理従事者25人中10人からノロウイルスが検出されましたが、従事者が調理後に同じ給食を食べていたため、調理前から感染していたのかどうか確認が困難な状況です。原因究明のために、「従事者は当該施設で調理された食品は喫食しない」ように厚生労働省でも指導がされていましたが、徹底はされていませんでした。それに加え、冬季は定期的なノロウイルス検査を実施して食中毒を未然に防ぐことが必須になってきています。春まではノロウイルス食中毒の危険性が高い状況が続くため、衛生管理の徹底をお願いします。

全国食中毒発生状況 (1/16~2/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	40	1815
寄生虫	6	6
カンピロバクター	4	27
自然毒	2	3
不明・その他	4	74

『ひとつ、ふたつ...快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
株式会社 **マルマ** エムテック衛生検査所

メールアドレス: info@maruma-ec.co.jp

本社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤2丁目5-11 TEL: (053)464-6400 FAX: (053)465-4120	名古屋支店	／ 〒452-0946 愛知県清須市廻間1-5-9 TEL: (052)325-3306 FAX: (052)325-3326
東京支店	／ 〒194-0004 東京都町田市鶴間424-1-402 TEL: (042)850-6454 FAX: (042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町2-4-15 TEL: (078)842-6755 FAX: (078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島960-1 TEL: (054)202-0210 FAX: (054)202-0220	福岡支店	／ 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1丁目6-15 TEL: (092)586-6421 FAX: (092)586-6321